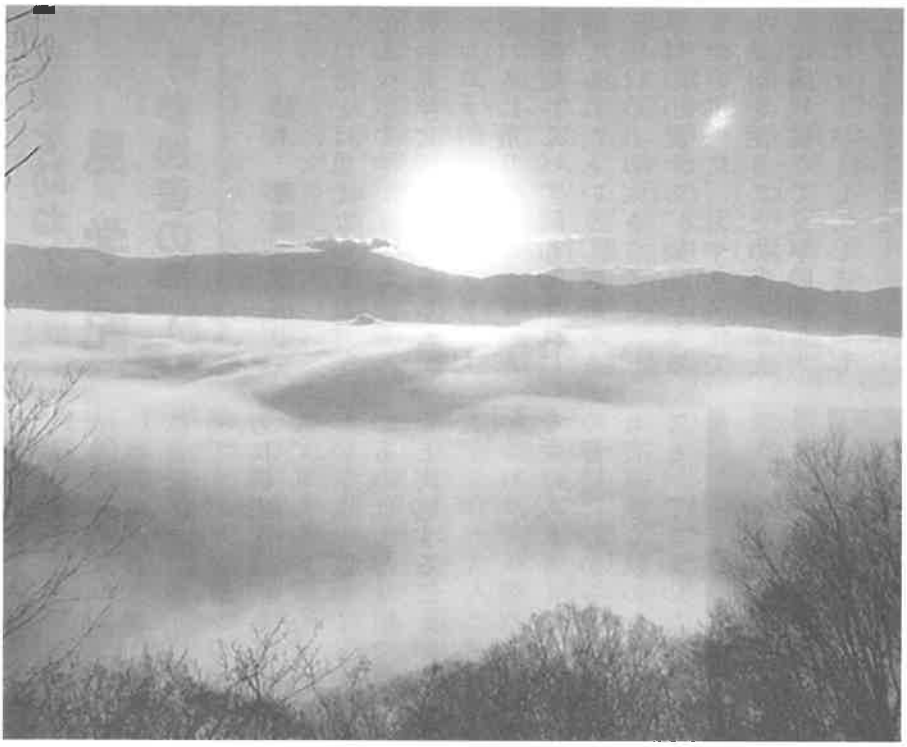

「初日の出」（朝日山観音）

謹んで新春のお慶びを申し上げます

館報あもり

発行所
長野市立安茂里公民館
電話 226－4059
発行人　新見　宏司
発行月　5.7.9.11.1.3月
（株）信光社

安茂里地区 世帯数と人口

（12月1日現在）

世帯数	9,166戸
総人口	20,733人
男	9,968人
女	10,765人

世界中がコロナに振り回された2020年が終わり、2021年・令和3年を迎えました。新年を迎えるころには新型コロナ感染症の抑え込みにも希望の光が見えてくるだろうと予測していた人も多かったのではないでしょうか？世界中でワクチンや治療薬開発の取り組みが進んでいますが、各国が協力し一刻も早く新型コロナの撃退が現実のものになって欲しいと思います。

ところで今年は丑年です。丑年生まれの人は、堅実で真面目に物事を進める努力家が多く働き者だといわれます。丑年のあなた、本当にそうですか？

牛にまつわる言葉や諺もたくさんありますが、善光寺のお膝元だけに信州は圧倒的に「牛にひかれて善光寺参り」を思い出す人が多いでしょう。また、物事の進み方が遅いことの例えとして「牛の歩み」という諺もあります。このゆっくりと歩く牛のイメージから国会などでは時として「牛歩戦術」という言葉が使われます。議会内での採決の際、議員が故意に投票箱までの移動に時間をかけ法案の成立阻止などを目的に行う行為で、その姿は真剣な議員には失礼ですがテレビ中継などでは非常に滑稽に映ってしまうのです。そして、この「牛歩戦術」が過去に長野県議会で使われたことを高齢者の皆さんは御存じでしょう。1948年、長野県を南北に分割しようという分県意見書案が中南信の議員から提出され、北信地域を中心とする反対派議員が牛歩戦術により議事引き延ばしを図り議場は大混乱となりました。そして、傍聴に詰めかけていた大勢の市民から「信濃の国」の大合唱が起こりこの日の本会議は流会になったとされます。地方議会でこの牛歩戦術が使われたのは非常に珍しく、いまの長野県はそんな歴史を経てあるのだと感慨深く思うと同時に……牛歩か……さすがに善光寺のお膝元だと思ったものです。

杏仁

新しい年2021年が幕を開けました。例年であれば「明けましておめでとうございます」と躊躇なく交わせる年頭の挨拶も、今年は素直に言えない人が多いのではないだろうか。5月のGW、そしてお盆の夏休みを我慢すれば、年末年始には首都圏や県外に出ている我が子や可愛い孫たちに会えると期待していた高齢者も、年末年始の休暇を利用して海外や国内の旅行を計画していた若い人たちも、その大部分が計画の中止や修正を余儀なくされたに違いない。一昨年末、中国で新型コロナウィルスが原因と分かる最初の肺炎患者が見つかってから既に1年以上が経過した。しかし、日本国内はもとより世界のコロナ感染の広がりは一向に終息の兆しが見えてこない。

そんな中、今年もまもなく成人の日を迎える。今年は長野県内で約1万9500人、そして安茂里地区では約300人の若者たちが晴れて成人の仲間入りを果たすことになる。一生に一度の晴れの日を大変な混乱の中で迎えることになるが、それを自分たちの不運とすることなく、此の苦難をともに乗り越え仲間としての絆をより強く結ぶ機会にしてもらえればと願うばかりである。